

# 盲ろう

視覚と聴覚の両方に障がいのある人を盲ろう者といいます。全く見えなく聴こえない人だけでなく、少し見えたり聴こえたりする人を含み、視覚や聴覚の単独の障がいは異なり、個別性と多様性が高い独自の障がいとされています。全く見えなくて全く聞こえない「全盲ろう」、全く見えなくて少し聞こえる「全盲難聴」、少し見えて全く聞こえない「弱視ろう」、少し見えて少し聞こえる「弱視難聴」の大きく4つに分けられます。障がいの発症順や他の障がいとの重複などにより、その障がいの程度や状態は人によってさまざまです。

視覚、聴覚障がいに対する単独の援助に加え、手書き文字や触手話のような独自のコミュニケーションの援助が必要になります。社会生活の多くの場面で、盲ろう者とのコミュニケーションに習熟した専門の“通訳・介助員”の助けが必要となります。

## 困っていることを理解しましょう

視覚や聴覚からの情報を入手することが難しいため、人とコミュニケーションをとることや外出など一人で移動すること、新聞・テレビ・パソコンやスマートフォンなどから社会情勢など情報を入手することに困難が生じます。

## こんなことに配慮しましょう

盲ろうかもしれない人に出会ったら、そっと肩や腕にふれてから手を取り、自分の人差し指で盲ろう者の手のひらに、ひらがななどでゆっくり大きめに文字を書いて話しかけてみましょう。または、盲ろう者の真正面に立って、大きく口をあけてゆっくり話しかけてみましょう。盲ろう者が聞き取れなくても、我慢強く、時間をかけてコミュニケーションをとることが大切です。音と光のない世界で生活し、孤独感を持ちやすい盲ろう者にとって、人との出会いが、社会と自分をつなぐ大切な「架け橋」となり、さまざまな支援を受けるための第一歩となる可能性があります。



盲ろう者の手のひらに指でひらがななどを書いて伝えます。



盲ろう者の真正面に立って、大きく口をあけて、ゆっくり話しかけることで伝えます。



話者の手話の形や位置を盲ろう者が手で直接触れることで読み取ります。

### 音声コード

